

学校だより

尾張旭市立西中学校

H23.11月号

文化祭・体育祭・ミュージックフェスティバルを終えて

校長 臼井 隆

西中学校の生徒主体の大きな行事である文化祭・体育祭・ミュージックフェスティバル（MF）が終わりました。各行事の目的を達成して成果をあげることができました。

3つの行事のねらいは、生徒の自主的な活動の中で、自らの活躍の場を見つけ自分を生かすことにあります。そして、共通の目標に向かって、みんなで協力して行事を創り上げることです。文化祭においては、文化的な体験を通して創造力を養うことができました。体育祭では学級での話し合いや練習を協力して行うことにより、学級の団結を深めることができました。そして、MFでは、練習の過程の中で協力する気持ちを育てるとともに成し遂げる感動や充実感を体験させることができました。

これらの行事を通して、生徒は自らの存在価値を見だし、自分の力を発揮することができました。そして、みんなで協力する喜びを体感し、その大切さを学びました。中学生という多感な時期に自らの良さや価値を発見し、自分に自信を持つことは、これからの生き方を考える上でとても大切なことだと思います。生徒一人一人の成長を感じることができました。その体験には、中学生のときにしかできない大切なことがあったと思います。

「今を大切に生きる」とは、よく聞く言葉ですが、中学生の時期は、人格の基礎をつくる時です。中学時代にしなければならぬこと、中学時代でないとできないことをしっかり積み重ねて、さらに大きく成長してくれることを願っています。

保護者の皆様におかれましては、各行事の実施につきまして、様々なご支援、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。今後も、学校の教育活動にご理解をいただき、生徒の活動を支えていただけますようお願いいたします。



半年間、生徒会会長をやらせてもらいました。最初は不安も多かったですが、執行部の仲間の協力で何とかやってくることができました。

学校祭では、「三つの学年で協力しあおう」「三つの大きな行事を成功させよう」という意味で、「三矢祭ダー」というテーマになりました。みんなの協力のおかげで、この大きな行事も成功させることができました。生徒会の仕事を経験することができて本当に良かったです。ありがとうございました。

前期生徒会会長 松田 光智



私は初めて体育祭運営委員会に入って、委員長になりました。今、振り返って見るとすごいやりがいのある仕事でした。今年は新しい競技が加わって、みんなが楽しんでくれるかどうか心配でしたが、当日はみんな盛り上がり競技に取り組んでくれて安心しました。私にとって、最後の体育祭でしたが、とても楽しく充実した体育祭になりました。

体育祭運営委員長 川原 舞子



今年度の文化祭のテーマは、みんなで深める仲間との絆 ー今、わたしたちにできることーでした。文化祭運営委員会として、みんなが楽しめる文化祭になるように、運営委員で何回も話し合いをしました。その結果、今年も楽しい文化祭になりました。ご協力ありがとうございました。また、文化祭の収益金の扱いについても話し合い、南相馬市の小中学生の為に活かしてもらうように決めました。そのお金(152,735円)は、12月に行われる人権集会の講師(南相馬市で震災にあった方)に、南相馬市の教育委員会に届けてもらうことにしました。

文化祭運営委員長 山本 紘士



3年生にとって最後のMFが終わりました。今年は委員長としてのMFだったため、とても緊張しましたが精一杯やった分、すごくやりがいも感じたMFとなりました。また、今年のテーマは、みんなで話し合っ、「咲かせよう音楽花」としましたが、どのクラスも一生懸命に練習に取り組み、当日は立派な音楽花を咲かせることができましたと思います。

西中学校の先輩達が築いてきた、MFの伝統を守ることができてとてもうれしく思います。

MF運営委員長 松本 悠

部活動頑張っています！



- 瀬戸地方バスケットボール新人大会
女子 優勝 男子 準優勝
- バスケットボール愛日大会
男子 男子3位 → 県大会へ
- 瀬戸旭地区中学生バレーボール大会
男子 優勝 女子 第3位
- 県少年秋季軟式野球瀬戸旭大会
第3位
- 瀬戸秋季陸上競技大会
各種目 入賞

ごはん応援箱 ご協力ありがとうございました。

文化祭の日は、たくさんの保護者の皆様にも「ごはん応援箱」にご協力いただきありがとうございました。ご協力いただいた食品21箱をNPO法人「セカンドハーベスト名古屋」を通じて、被災地(宮城県山元町)の仮設住宅に届けていただきました。その仮設住宅に住む方から、ご丁寧に礼状をいただきましたので、一部を紹介します。

○ 西中学校生徒並びに先生はじめPTAの皆様方には、「ごはん応援箱」を送っていただきありがとうございました。私は73歳で一人暮らしでしたが、幸いにも助かることができました。しかし、私の妹夫婦は津波にさらわれ亡くなりました。本当に誰もか思ってもいないことで、亡くなった人たちは逃げ遅れてしまったのです。私も、避難所を転々としながら、今の仮設住宅に入ることができました。六帖一間ですが、全国の方々が、代わる代わる応援に駆けつけて物資等の支援をいただいております。今回は本当にありがとうございました。頑張ります。

